

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課情報G
E-mail:kikakujocho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)
FAX63-5139



今月の表紙は、中央公園の桜の木に座りながら談笑していた3人の女の子です。各所の桜が満開を迎えたこの日、中央公園は花見に訪れた多くの人でにぎわっていました。真っ青な空の下で食べるお弁当や花見団子ってなんであんなに美味しいんでしょうね☆

今月の表紙

こつたの民話

「須美のおいなりさん」

須美

今はもうありませんが、須美の松坂の地に、かつておいなりさんがありました。明治になる少し前、このおいなりさんをお守りしていたのは信献尼という尼さんでした。信献尼さんはとても信心深く、おいなりさんの信仰をなんとか広めよう、そのためにはまず、本堂を建て直そうと一心に働いてみえました。そして、いつからか、このおいなりさんのお使いの白いきつねともお話しできるようになりました。

ある日のことでした。この白いきつねが「私は、長い間おいなりさんに仕えてきました。けれども何の位もないので、村へ出るいつも犬たちに追い回されます。このことがとても悲しいのです。」というではありませんか。この話を聞いた信献尼さんは「それは悲しいことですね。では、京都の伏見のおいなりさんにお参りして正一位という位を授かってきましょう。そうすれば犬たちももう

ほえることはありません。」と、さっそく伏見のおいなりさんへの道を急ぎました。信献尼さんは、この小ぎつねをふところへ入れていきました。

正一位の位を授かるには、伏見のおいなりさんの鳥居を2回跳ぶうちに1回びよんと跳び越えなくてはなりません。しかし、白いきつねはうまく跳び越えられません。がっかりして泣いている白いきつねに、「1回目がうまくいかなかったと泣いていることがありますか。2回目に跳び越えさえすればいいのです。絶対に正一位の位を授かるのだ。絶対に跳ぶんだと心に決めて2回目を跳んでみなさい。」と励ましました。

2回目、白いきつねは見事に鳥居を跳び越えることができました。こうして無事に正一位の位を授かることができたのです。

(こつたの民話要約)

みんなの作品展!

平成23年度健康のまち小中学生作品展からのセレクトです。



幸田中3年
ながいみどり
永井 碧 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課情報Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで。)

田川町の方言

「やなえろ」

5月4日は「みどりの日」。わが家も緑化活動に大わらわ……
「まー植えるもんあーへんで、こいでしまいだね」
「まだ、はたんやなえろであるだ」

「もう植えるものがないから、これで終わりだね」
「また、畑に仮植えしてあるよ」という意味です。

この「やなえろ」、辞書を引いても出てきません。そこで、「早苗」ではないか、と仮説を立てて調べてみました。

「早苗」とは、田植えの際の稲の苗のことですが、語源については諸説あり、はっきりしていません。でも、機械で植えることができなかった部分を手で植えることを「さしなえ(挿苗)」といいます。ある地方では「さなえ」ということがわかりました。機械のなかったころは、すべて手植えですので、田植えそのものが「さなえ(挿苗)」だったとすると、「早苗」は当て字ということになります。

「やなえろ」も、仮であろうが苗を植えることですので、「挿苗」なら納得いただけますよね。

(文) ぎんぎ



青春
トークリレー
第230走者

やまもと やすひろ
山本 泰裕 さん

横落区在住 24歳
身長 177cm A型

好きな動物 コアラ (のマーチ)
好きなタイプ イチゴ味

4月から社会人。自由が醍醐味である学生生活はあっという間だった。その生活から学んだことは常に刺激を受けること。そのため自ら動き、固定観念を捨てること。そのモチベーションは常に笑顔でいることだ。そんな私は変わった人と言われ、それは“あえて”や“だからこそ”の行動である。異なる考えを認める事が刺激であり、それに笑顔は欠かせない。そして私の笑顔は、度を越えニヤニヤしている。克服にハンサムスーツを着たいが現実はそんなに甘くはない。笑顔とは、相手も明るくなる相乗効果。特に着飾らない笑顔が嫌いな人はいない。そんな笑顔が成長過程の証でもある。この笑顔でまずは10年先を見通し、今を楽しみたい。



はろー
キッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



わんぱくどより
「某日某日」
「幸田保育園」

楽しかったお別れ遠足

3月8日、幸田保育園では「おきのさと」へお別れ遠足に行き、ウォークラリーをしました。
幸田保育園は縦割クラスです。異年齢で24チームをつくり、年長児のリーダーに従って各コーナーで課題をクリアして合格シールをもらうというものです。
①伝言ゲーム。簡単な言葉でも途中でまったく変わる不思議な伝言。
②しりとり。順に次の子が言葉をとりみんなで応援する姿も見られました。
③くじ引き。色を始めるに言っておき、箱から言った色を3本以上出すゲーム。
④綱引き。保育士対子どもで綱を引っ張り合って、子どもたちの勝ち。
⑤魔法のじゅうたん。チーム全員がじゅうたんに乗りきれるか皆で体をつかみ合い一体になりました。
⑥かごめかごめ。
後ろの正面の子が「だれだ」と言っただけです。ほほみんな当たり。

⑦歌をうたう。チームで好きな歌を決めてみんなで合唱。「にじのむこうに」が素敵で山にひびきました。遊んだ後はおいしい手作り弁当とおやつを食べて大満足の日でした。



ちよと
編集者の
わんぱくど

▼さよならはかなーしい言葉じゃないー
あ、すみません。思わず北部中学校の卒業式で聞いた、いきものがかりの「YELLOW」を口ずさんでしまいました。合唱曲にも時代が表れるんですね。いわゆるJ・POP。旅立ちにびったりな前向きだけど少し寂しい歌詞。卒業生の皆さんが一生懸命練習し、感謝の気持ちを込めて歌う姿にトリハダが止まりませんでした。
今回の広報で、卒業のフォト特集を組ませていただきましたが、一番右上の写真、お気づきでしょうか。幸田高校の卒業式で「第2ボタンをあげる瞬間」に遭遇したのです。下校の時間になり、たくさんさんの生徒が別れを惜しみながら先生や友達と会話をしている中、5mほど離れたところに見えた感動の光景。いつの時代も変わらない「卒業」の代名詞。見た瞬間、本当に胸が高鳴りました。
実はですね、僕も第2ボタンには思い入れがあるんですよ。高校の卒業式のこと、時は同じく下校の時間。周りではちらほら女の子に第2ボタンをあげる光景。すると僕の前に、「先輩…。学ランごと全部ください！」
そこには部活の後輩(男)の姿が。「俺の学ラン大きくて。先輩のならサイズぴったりで着れると思っくんよ。」「お…いいよ。」
断る理由もなく学ランをはぎ取られ、いろんな肌寒さを感じながら下校した編集者(T) 18歳の春。